

令和4年度事業報告

I. 会議

1. 理事会

令和4年	5月	27日	
令和4年	10月	30日	書面決議
令和4年	12月	20日	書面決議
令和5年	3月	17日	

2. 評議員会

令和4年	6月	19日	
令和5年	3月	26日	

3. 監査

令和4年	5月	27日	法人監査
------	----	-----	------

II. 事業所別事業計画・事業報告

1. デイサービスセンターアスカ【通所介護・介護予防通所介護】

(1) 事業計画

- ① 様々な介護状態に応じた的確なサービスを実施します。
- ② 感染症や災害への対応力を強化します。
- ③ 地域や家族との連携を強化します。
- ④ 稼働率を高め、収入の確保と経費の削減に努めます。

(2) 事業報告

- ① 医療的対応が必要なお客様、看取り期のお客様、階段地のお客様、2人送迎が必要なお客様などさまざまな希望に応じたサービス提供ができました。
- ② 来所時の検温、アルコール消毒、うがいの徹底と2時間ごとのアルコールによる手すりなどの拭き上げ、各テーブルへのパーテーションの設置、空気清浄機のフル稼働、オゾン発生装置の設置、毎食ごとに感染予防への意識啓もう、職員に対する定期的な感染検査や体調の疑わしい職員の出勤控えの勧めなど、新型コロナウイルスの持ち込みを前提としたうえでの感染拡大防止に努めました。
- ③ 新型コロナウイルスの感染脅威がありましたので、令和4年度も地域との積極的な交流はできませんでしたが、前年度よりもレクリエーションで外出の機会を多く計画しました。同居、別居を問わずご家族への利用状況の報告や担当ケアマネージャーとのこまめな情報共有を行いラポール（信頼関係）の形成に努めることができました。
- ④ DXを活用した業務の効率化を検討しましたが、まだまだ不十分だと感じています。令和5年度も引き続きお客様と職員に対する有益なDXを検討して導入したいと考えています。
- ⑤ 新型コロナウイルスによる営業縮小が直接的、間接的に大きく影響した結果、延べ利用者数9,977人で5年ぶりに1万人台を割ってしまいました。年間売り上げも8千7百万円で目標の9千万円を達成することができませんでした。

(3) 利用定員・年間利用者数

① 利用定員対比

	㉞ 利用定員	㉟ R4年度利用者数	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間延	12,700	9,977	-2,723	78.6
1日平均	40 (35)	28.4	-11.4	71.0

② 前年対比

A) 登録者数

	㉞ R3年度登録者数	㉟ R4年度登録者数	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間延	1,110	1,074	-36	96.8
1月平均	92.5	89.5	-3.0	96.8

B) 利用者数

	㉗ R3年度利用者数	㉘ R4年度利用者数	㉘-㉗ 差	㉘/㉗×100% 対比
年間延	10,622	9,977	645	93.9
1日平均	31.0	28.4	-2.6	91.6

(4) 職員配置 (3月末日現在)

	常 勤		非常勤		合 計
	専任	兼務	専任	兼務	
管 理 者	0	1	0	0	1
生 活 相 談 員	0	4	0	0	4
介 護 職 員	1	4	4	0	9
看 護 職 員	0	1	0	3	4
作 業 療 法 士	0	1	0	0	1
栄 養 士	0	1	0	1	2
調 理 員	2	0	4	0	6
ド ラ イ バ ー	0	1	0	1	2
介 護 補 助	0	2	0	4	6
延 べ 人 員	3	15	8	9	37
実 人 員	12		16		28

(5) 令和4年度自己点検評価

上半期は前年度を上回る延べ利用者数と売り上げでしたが夏以降は市中で新型コロナウイルスへの感染が広がるにつれて新規のお問い合わせがなくなっていました。さらに持病や老衰、新型コロナウイルスの感染で入院するお客様や亡くなるお客様が例年よりも多かったことで登録者が著しく減少してしまいました。また、年末から年始にかけてクラスターが発生したことで営業縮小を行ったことが決定打となって売り上げを大幅に落とす結果となりました。職員に関しても子育て中の母親が多いことで自身や家族が新型コロナウイルスに感染するケースが続き長期療養をする事態が毎月のように発生して不安定なシフトになりました。

そのような中でお客様へは安全第一、職員に対してはこれ以上の業務の負担を避けるためには何が出来るかと言うことを年間を通して検討しましたので令和5年度に生かしていきたいと考えています。また、2月からは新規のお問い合わせも再びいただくようになりましたのでご利用に繋がるといよいよお客様とご家族、担当ケアマネージャーに対して一層の接遇を行っています。

2. グループホームひばり【認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護】

(1) 事業計画

- ① 認知症ケアに関する研修の機会を増やし、職員一人一人が認知症の方に対する理解を深めて質の高い認知症ケアが提供できるように努めます。
- ② 事業所内で感染症に関する委員会を設置し感染症の予防や発生時の対応ができるように努めます。
- ③ 毎月消防に関する訓練を行い、マニュアルの見直しや火災・自然災害等を想定した避難訓練などを実施し、災害発生時に迅速に対応できるよう備えます。
- ④ 介護ロボット・ICT を活用することによってサービスの質を維持しつつ、職員の介護負担の軽減と離職防止に努めます。
- ⑤ 体調管理を徹底し長期の入院を防ぐことで平均稼働率98%、売り上げ4,300万円を目指します。

(2) 事業報告

- ① 令和4年度は会議の中で認知症ケアについて話し合いを行うことはあったが、事業所内で認知症ケアに関する研修を実施出来ませんでした。
- ② 新型コロナウイルス感染症に関する研修等は参加できましたが、事業所内に感染症に関する委員会を設置できませんでした。
- ③ 毎月消防に関する訓練を実施し、火災を想定した避難訓練やマニュアル見直しを行いました。が、自然災害を想定した避難訓練を実施することができていません。
- ④ 移動用リフト（カーリーナ）や、マットレスの下に敷いて人の体動を捉えることで睡眠状態に加え、起き上がりや離床・在床を把握できる機器（眠りSCAN）を活用し、腰痛予防と夜間の介護負担軽減につながりました。
- ⑤ 令和4年度の平均稼働率は99.2%で、売り上げ目標である4,300万円を達成できました。
- ⑥ 外部評価（福祉総合評価機構）
令和5年2月22日
- ⑦ 家族会の開催
新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、家族会の開催は中止しました。

(3) 利用定員・年間利用者数

① 利用定員対比

	㉞ 利用定員	㉟ R4年度利用者数	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間延	3,285	3,261	-24	99.2
月平均	273	271	-2	99.2

② 前年対比

A) 登録者数

	㉞ R3 年度登録者数	㉟ R4 年度登録者数	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間延	3,285	3,261	-24	99.2
月平均	273	271	-2	99.2

B) 利用者数

	㉞ R3 年度利用者数	㉟ R4 年度利用者数	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間延	3,236	3,261	25	100.7
月平均	269	271	2	100.7

(4) 職員配置 (3 月末日現在)

	常 勤		非常勤		合 計
	専任	兼務	専任	兼務	
管 理 者		1			1
計画作成担当者				2	2
介 護 職 員	6	1	1	2	10
看 護 職 員			2		2
介 護 補 助			2		2
延 べ 人 員	6	2	5	4	17
実 人 員	7		7		14

(4) 運営推進会議

第 83 回	令和	4 年	5 月	29 日
第 84 回	令和	4 年	7 月	24 日
第 85 回	令和	4 年	9 月	25 日
第 86 回	令和	5 年	1 月	29 日

※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面決議となりました。

(5) 令和4年度自己点検評価

令和4年度は入院者を出すことがなく、事業所内で2名の方の看取りを迎えることができました。それに伴い入所が2名と、入所までの対応を見直しし、空室を24日に抑える事が出来ました。

職員は体調不良でのお休みが多く、勤務変更にて一部の職員へ負担がかかってしまいました。4～6月と12～2月の間は人員不足あり、職員の疲弊が見られていましたが、他事業所からの応援を受けて事業を継続することができました。

3. 居宅介護支援・介護予防支援【居宅介護支援事業所】

(1) 事業計画

① 特定事業所加算Ⅲの取得継続

A) ケアプランの質の向上

- 週1回のミーティングを実施し、ケース検討や社会資源の情報共有などを行い、事業所全体での質の向上を図ります。
- 他法人及び法人内の他事業所、多職種によるケース検討会を実施します。

B) ケアマネジメントの学びと後進の育成

- オンラインも含めた各種研修会への参加を積極的に実施します。
- 西部地域包括支援センター地区事業所等連絡会や、自立支援型地域ケア個別会議などへ参加継続します。
- 法人内で開催される研修会へ参加します。
- 法定研修等における実習生の受け入れを積極的に行います。
- 事業体制維持や拡大を目指し、新規採用者の獲得を目指します。

② 連携の強化

A) 事業所内の連携

- 担当が不在でも円滑な対応が出来るように、事業所内の情報共有を図ります。

B) 法人内の連携

- 法人内の他事業所、多職種との連携を強化します。

C) 西部地域包括支援センターとの連携

- 地域ケア推進のためにも、西部地域包括支援センターとの更なる連携の強化を図ります。

D) 医療との連携

- 看取り期も含めた、その人らしい暮らしを支えるためにも医療との連携を強化します。

③ 業務継続計画作成 BCP 作成の推進

- 感染症や災害が発生した場合でも、必要なサービスが安定的・継続的に提供できるためのBCP作成を進めると共に、法人内他事業所とも連携し研修や訓練を実施します。
- ICTの導入を図り、業務の効率化と非常時のサービス継続を目指します。

④ 収入の確保

- 営業や広報活動を強化し、継続的に新規を受け入れて年1,700万円の収入を目指します。

(2) 事業報告

① 特定事業所加算Ⅲの取得継続

A) ケアプランの質の向上

- 週1回の居宅ミーティング内でケース検討、業務改善等の検討を実施できました。
- 西部包括支援センター居宅連絡協議会や他法人とのオンラインによる事例検討会、長崎県介護支援専門員連絡協議会を通じて、多職種も含めたケース検討会が実施できました。
- 主任介護支援専門員更新研修、専門課程Ⅰ、Ⅱの研修を受講し、資格の更新ができました。

B) ケアマネジメントの学びと後進の育成を図る

- 関連する内容の研修会へ参加し、事業所内での伝達講習も実施し情報共有に努めました。
- 新型コロナウイルスの影響もあり、主にオンラインでの研修会参加が実施できました。
- 西部地域包括支援センター地区事業所等連絡会、他法人との事例検討会、3包括合同連絡協議会、自立支援型地域ケア個別会議への事例提供2回を実施しました。
- 法人内職場研修（オンラインも含む）へ参加しました。
- 実習指導者2名登録体制は継続していますが、本年度の実務研修実習希望者はありませんでした。

② 連携の強化

A) 事業所内の連携

- 始業前及び週1回の居宅ミーティングを活用し情報共有と、担当不在時の対応もスムーズに実施できました。

B) 法人内の連携

- リーダー会議、コミュニケーション会議等も活用し、法人内他事業所との連携強化に努め緊急時においてもスムーズなサービス調整が実施できました。

C) 西部地域包括支援センターとの連携

- 対応困難な事例に関しての相談や連携を図り、西部地域包括支援センターからの相談も12件あり新規利用へとつながりました。

D) 医療との連携

- 入退院時に主治医や連携室との情報共有を実施し、加算の算定もできました。
- 連携室のある病院からの相談8件、個人病院医師より4件と前年度より病院からの相談が増加し、さらなる医療との連携強化が図れました。

③ 感染症や災害への対応力を強化について

- 法人内でのコロナ発生時のシミュレーションに参加し、必要な対応について検討や準備ができました。
- 自然災害等に対するBCPの策定までには至らず次年度の課題となりました。

④ 収入の確保について

- 目標としていた年1,700万円にはわずかに届きませんでした、1,680万円の収入を得ることができました。

(3) 請求目標・年間請求者数

① 請求目標対比

	㊦ 請求目標	㊧ R4年度請求数	㊧-㊦ 差	㊧/㊦×100% 対比
年間延	1,474	1,422	-52	96.4%
月平均	122	118	-4	96.7%

※目標数：常勤ケアマネ1名につき40名

内訳：介護35名、予防10名（0.5名換算）

② 前年対比

A) 請求者数

	㉗	㉘	㉘-㉗	㉘/㉗×100%
	R3年度請求者数	R4年度請求者数	差	対比
年間延	1,420	1,422	2	99.8%
月平均	118	118	0	100%

※予防支援者は0.5名換算

(4) 職員配置 (3月末日現在)

	常 勤		非常勤		合 計
	専任	兼務	専任	兼務	
管 理 者		1			1
介護支援専門員	2	1			3
延 べ 人 員	2	2			4
実 人 員	3				3

(5) 令和4年度自己点検評価

主任介護支援専門員の更新研修も受講し、特定事業所加算Ⅲの算定継続できる体制を維持できましたが、11月から2月にかけての登録終了者の急増により、目標としていた事業収入を超えることができませんでした。この原因としては、急性心不全や脳梗塞などによる急な体調悪化にともない、在宅生活が困難となった事例が例年より多かったことが考えられます。一方で、登録者減に対する新規獲得への活動が不足していました。質の向上に関しては、コロナ禍の中でもオンラインを活用し、各種研修会や、西部包括支援センター連絡協議会、他法人との事例検討会に参加し、自己研鑽に努められたと思います。

令和5年度は、特定事業所加算Ⅲの算定を維持できるよう、職員の体調管理に努めつつ新規採用を実現したいと思います。また、要介護認定者の登録増を目指し、事業収入の安定とケアマネジメントの質の向上を図り、地域で選ばれるケアマネージャーの育成に力を入れたいと思います。

4. さくら【小規模多機能型居宅介護・予防小規模多機能居宅介護】

(1) 事業計画

- ① 地域包括ケアの中心的な支援事業所としての意識を常に持ち、地域資源を十分に理解しながら、登録者様の生活が地域の中で充実したものになるような支援の提供を心掛けます。
- ② 小規模多機能の支援の特性を生かし、ご利用者、ご家族様のニーズを柔軟に捉え、「通い・泊り・訪問」のサービスを充実させた存在を目指します。
- ③ 法人の健全経営の一部として十分に機能し、稼働率を高めながら、収支の充実を維持するとともに、科学的介護を意識し、CHASE・VISIT情報の収集・活用とPDCAサイクルを推進し介護サービスの質を向上させます。

- ④ 「働きやすい職場」を目指し、職員同士、協力しながら、ストレスや疲れを貯めすぎないように雰囲気作りを意識する。また、残務にならないよう勤務時間中の仕事を充実させ、同時に年間を通じて適切な有給消化に努めます。
業務の中でお互いが感謝と誠意をもって心を通じ合わせ信頼関係の上で仕事を進めていきます。
- ⑤ 居宅介護支援事業所、通所事業所との連携を密に行い平均稼働率を 95%以上、年の売り上げ 8,100 万円を目指します。
- ⑥ 作成している BCP をもとに、状況に合わせて確認を行い、災害時や感染症発覚時、マニュアルに沿って迅速な対応ができるように準備を怠らないようにします。

(2) 事業報告

- ① スタッフの知識や意識という点で十分とは言えませんが、地域社会での生活を継続するために必要な支援の提供に取り組みました。
- ② ケアマネを中心にニーズを捉えながら支援に努めさせていただきましたが、結果的に独居の方の施設入所や、突然のご逝去などがありました。小規模多機能の支援の限界や、サービス内容が十分であったか等の課題点も感じました。
- ③ 年度の終わりごろから、看護の配置が充実し配置加算の取得を開始することが出来ました。一方で LIFE（科学的介護情報システム）に関しては、取り組みに着手出来ていませんので今後早急に進めていきます。
- ④ 新型コロナに罹患したスタッフが数名発生し、健全な運営が厳しい状況もありましたが、スタッフ間での連携を取りながら、最低限必要な方へ必要なサービスの提供に努めることが出来ました。まだまだ「働きやすい職場」環境づくりの途中ですが、改めて連携やお互いを助け合う気持ち、感謝の気持ちを持つことの大切さを再確認しながら更なる改善に努めていきます。
- ⑤ 年間稼働率は 90%。年間売上は 7,160 万円と目標に達することができませんでした。目標達成の為に、宿泊調整などでのサービス利用料アップの取り組みや、令和 4 年 3 月からの看護体制加算Ⅲの取得開始の為に体制整備などに取り組みましたが、結果として前年対比で -169 万円という結果になりました。
- ⑥ BCP に関して、全てのスタッフが把握しているとは言えない現状です。まずは事業計画から共有し、ひとりひとりの意識の向上に努めていきます。

(3) 利用定員・年間利用者数

① 利用定員対比

A) 登録者数

	㉞ 利用定員	㉟ R4 年度登録者数	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間延	348	312	-36	88.5%
月平均	29	26.0	-3.0	88.6%

B) 通い利用者数

	㉞ 利用定員	㉟ R4 年度利用者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	6,588	3,696	-2,892	64.4%
1日平均	18	11.7	-6.3	65%

C) 宿泊利用者数

	㉞ 利用定員	㉟ R4 年度利用者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	2,928	1,429	-1,499	54.3%
1日平均	8.0	4.0	-4.0	55%

② 前年対比

A) 登録者数

	㉞ R3 年度登録者数	㉟ R4 年度登録者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	308	312	-4	94.1%
月平均	25.7	26.0	0.3	95.1%

B) 通い利用者数

	㉞ R3 年度利用者数	㉟ R4 年度利用者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	4,245	3,696	-549	89.3%
月平均	63.0%	62.3%	-0.7	90%

C) 宿泊利用者数

	㉞ R3 年度利用者数	㉟ R4 年度利用者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	1,592	1,429	-163	86.8%
月平均	4.4	4.2	-0.2	88%

D) 訪問利用者数

	㉞ R3 年度利用者数	㉟ R4 年度利用者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	5,022	3,219	1803	135.9%
月平均	418.5	268.2	150.3	135.8%

(4) 職員配置 (3月末日現在)

	常 勤		非常勤		合 計
	専任	兼務	専任	兼務	
管 理 者		1			1
計画作成担当者	1				1
介 護 職 員	7	1	5	0	13
看 護 職 員	0		2		2
介 護 補 助			3	0	3
延 べ 人 員	8	2	10	0	20
実 人 員	9		10		19

(5) 運営推進会議

グループホームひばりに同じ

(6) 令和4年度自己点検評価

登録者数はマックスの29名を達成することが出来ず最高で28名様にとどまり一年間を通じ目標の売上を達成することが出来ませんでした。登録者が伸び悩んだこともですが、介護度の高い方の終了が続いたことも要因かと考えます。

また、下半期のスタートから管理者の交代もありました。そこで感じた課題として、スタッフ間のコミュニケーション不足や不調和な職場環境があげられます。その課題については、現在管理者及びサブリーダーを中心に取り組みを強化しています。今後は改善策は勿論、いかにして売上を伸ばすかについてもスタッフ一丸となって考える体制づくりを目指していきたいと思います。

5. さくらII

【小規模多機能型居宅介護】

(1) 事業計画

① 根拠に基づいた認知症ケア・自立支援・家族支援の実践

A) 認知症研修会を事業所内外で開催し、知識を深めてケアの質を高めます。

B) アスカ会の理念を日々のケアで体現するために「人として何が正しいのか」の指針となるフィロソフィーを職員で共有します。

② 各種計画・訓練の実施や研修への参加

A) 業務継続に向けたBCPを作成し、実施します。

自然災害対策として、地域特有の被害(台風による長時間の停電など)を想定した計画書やハザードマップを作成します。事業を縮小しながらも継続し、出来るだけ早く復旧させる取り組みを行います。

感染症対策として月に1度、事業所での訓練を実施し、感染拡大を予防します。

B) 各職員のスキルアップ・キャリアアップのために認知症介護に関する各種研修の受講や介護福祉士・社会福祉士・認知症ケア専門士等の資格取得に取り組みます。

③ 稼働率アップと収入の確保

- A) ご利用者数を 27～29 名で安定させます。日々の状態観察で長期入院を減らすことにより、稼働率を平均 97%、月平均 674 万円、年間売り上げ 8,088 万円を目指します。

(2) 事業報告

① 根拠に基づいた認知症ケア・自立支援・家族支援の実践について

認知症ケア：隔月のさくらⅡ内研修「どんとこい認知症」は令和3年に比べると活発ではありませんでした。令和3年開催分の効果は出ていました。

- ・職員都合でお客様の自発的な行動を封じ込めるような言葉が減りました。
- ・(激しく怒る・激しく帰りがたがる)等のチャレンジング行動に対し、場当たりの対応ではなく症状が出る前に得意分野の作業を差し出してから落ち着いて頂き、感謝の気持ちを伝えるケアが出来ていました。

自立支援：職員によるケアのバラつきがありました。ケアプランの準備不足により、手を出しすぎる過剰な支援も目立ちました。

家族支援：ご家族への心理的なフォローが、看取りケアや柔軟な退院支援に結び付いた成果だと思えます。

② 各種計画・訓練の実施や研修への参加について

各種計画：自然災害に対するBCP(事業継続計画)は、ひな形を埋めた後に現実に即した形への更新が不十分でありました。新型コロナウイルスに関しては想定訓練を基に適切な業務縮小が出来たと思えます。

研修：外部研修への参加に加えて、積極的な自学により介護福祉士に3名が合格しました。

③ 稼働率アップと収入の確保について

予算 8088 千円のところ、7718 千円に低迷しました。原因としては、R4.9 月以降に介護度の高い、利用頻度が高いお客様の施設入所を予測しておきながら、営業活動・広報活動を怠っていた点です。

(3) 利用定員・年間利用者数

① 利用定員対比

A) 登録者数

	㊦ 利用定員	㊨ R4 年度登録者数	㊨-㊦ 差	㊨/㊦×100% 対比
年間延	348	300	-48	86%
月平均	29	25	-4	86%

B) 通い利用者数

	㊦ 利用定員	㊨ R4 年度利用者数	㊨-㊦ 差	㊨/㊦×100% 対比
年間延	6,570	4,651	-1,919	70%
月平均	548	387	-161	70%

C) 宿泊利用者数

	㉞ 利用定員	㉟ R4 年度利用者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	3,285	2,687	-598	81%
月平均	273	223	-50	81%

② 前年対比

A) 登録者数

	㉞ R3 年度登録者数	㉟ R4 年度登録者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	335	300	-35	89%
月平均	27	25	-2	89%

B) 通い利用者数

	㉞ R3 年度登録者数	㉟ R4 年度登録者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	4,886	4651	235	95%
月平均	407	387	20	95%

C) 宿泊利用者数

	㉞ R3 年度登録者数	㉟ R4 年度登録者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	2,376	2,687	311	113%
月平均	198	223	25	112%

D) 訪問利用者数

	㉞ R3 年度登録者数	㉟ R4 年度登録者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	4686	3830	-856	81%
月平均	390	319	-71	81%

(4) 職員配置 (3 月末日現在)

	常 勤		非常勤		合 計
	専任	兼務	専任	兼務	
管 理 者		1			1
計画作成担当者		1			1
介 護 職 員	7	1	9		17
看 護 職 員	1				1
介 護 補 助			2		2
延 べ 人 員	8	3	11		22
実 人 員	9		11		20

(5) 運営推進会議

グループホームと同じ

(6) 令和4年度自己点検評価

年間収入は前年度より約150万円の伸びがありましたが、予算に対しては約400万円の未達となりました。

新規利用者の獲得で、上期は計画を上回り好調に見えましたが、予測される施設入所者に対して、カバー出来るような新規獲得に向けた営業・広報活動を怠りました。

介護サービスについては認知症ケア・家族支援の視点から、地域で安心して暮らして頂けるケアを提供出来たと考えています。令和5年度もフィロソフィーの浸透により、更に正しい価値基準を保って行きます。

新型コロナウイルス陽性者発生時の対応については、日頃の体調確認や想定訓練の成果により、最小限の業務縮小を経て、営業再開する事が出来ました。

6. デイサービスセンターアスカII【認知症対応型通所介護】

(1) 事業計画

- ① 利用者の自立支援及び個別ニーズを捉えた介護の実践に努めます。
- ② 認知症に対する更なる理解を深め認知症介護に携わる者としてのスキルの向上に努めます。
- ③ 地域との連携や交流の強化に努めます。
- ④ 経営の安定向上に向けた取り組みに努めます。(目標1,900万円)
- ⑤ 介護人材確保の為、職場環境の改善など働きやすい介護現場を目指し取り組みます。

(2) 事業報告

- ① お一人お一人のレベルや状況をスタッフ間で密に共有しながら、ご自宅での生活を見据えた支援や残存機能維持を心がけることを意識しました。
- ② 認知症をひとくくりに捉えず、個人個人の認知症状を把握し、様々なアプローチを試しながら、より良い支援を模索し対応することを心がけました。ご家族のお気持ちも丁寧に捉えながら、基本的な認知症に対する理解を今後も深めていきます。
- ③ 直接的な連携の機会は少なかったですが、担当制の予防教室への参加や広報紙配布時の同行などを通して地域との交流の機会に努めました。
- ④ コロナの制限による営業縮小による利用数の減少や、利用率の高い方の入院、管理者の入れ替え、ベテラン職員の退職などもありましたが、年度予算を上回る1900万程の売上がありました。
- ⑤ 利用数が増えるとハード面での問題が出てきますが、限られたスペースでの業務を考え、不要な備品の整理、レイアウトの再考、老朽化した食器などの入れ替えを行いました。職員同士、お互いに前向きな言葉を掛け合い労うなど、日頃からのコミュニケーションを引き続き大事にしていきたいと思えます。

(3) 利用定員・年間利用者数

① 利用定員対比

	㉞ 利用定員	㉟ R4 年度利用者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	3,110	1,714	-1,396	55.1
月平均	259	142.8	-116.2	55.1

② 前年対比

A) 登録者数

	㉞ R3 年度登録者数	㉟ R4 年度登録者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	147	148	1	100.6
月平均	12.3	12.3	0	100.6

B) 利用者数

	㉞ R3 年度利用者数	㉟ R4 年度利用者数	㊱-㉞ 差	㊱/㉞×100% 対比
年間延	1,389	1,714	325	123.3
月平均	115.7	142.8	27.1	123.4

(4) 職員配置 (3 月末日現在)

	常 勤		非常勤		合 計
	専任	兼務	専任	兼務	
管 理 者		1			1
生 活 相 談 員		2		1	3
介 護 職 員	1	1		1	3
機 能 訓 練 指 導 員				1	1
看 護 職 員				1	1
延 べ 人 員	1	4	0	4	9
実 人 員	3		2		5

(5) 運営推進会議

第 11 回 令和 4 年 1 0 月

第 12 回 令和 5 年 3 月

※ 第 11 回運営推進会議は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面決議としました。

(6) 令和 4 年度自己点検評価

年間終わってみれば、前年を上回る売り上げ結果となり、多くのお客様にご利用していただきました。認知症デイというその特性から限られたスペースでの個別ケアを求められる場面も多く、スタッフも色々と工夫をしながら、「居心地の良さ」を追求してきた結果であると捉えています。

令和 4 年度下期においては、ベテラン職員の退職や、管理者の変更などもあり、体制の変化もありましたが、何とか前半の前年度を上回る稼働をキープしながら、年度を終えました。R5 年度

は、職員全員の勤務環境（休憩時間、休憩場所の確保）の改善も意識しながら、ハード面の老朽化や、効率性をしっかりチェックし、お客様、職員のため、より一層のサービスの質の向上をめざして参ります。

7. デイサービスセンターアスカ立神

【地域密着型通所介護】

(1) 事業計画

(ア) 西泊、立神、飽の浦地域の要支援・要介護高齢者の生活を支えます。

(イ) 感染症や災害への対応力を強化します。

A) 手洗い、消毒、検温、換気などを適切に行い、事業所内での染症を防ぎます。

B) BCPに則り、災害が発生した場合は迅速な対応ができるように訓練します。

(ウ) 地域や家族との連携を強化します。

A) 運営推進会議を定期的で開催してご意見やアドバイスを活かします。

B) ご家族との連絡を密に行い、信頼関係の構築に努めます。

(エ) 科学的介護に取り組みます。

A) LIFEを活用して根拠に基づいたケアを実践します。

(オ) 稼働率を高め、収益確保に努めます。

A) 地域密着の特性を生かして細やかなケアを実践し平均稼働率80%、売り上げ目標2,200万円を目指します。

(2) 事業報告

(3) 利用定員・年間利用者数

① 利用定員対比

	㊦ 利用定員	㊩ R4年度利用者数	㊩-㊦ 差	㊩/㊦×100% 対比
年間延	3,110	2,298	-812	73.8
月平均	259	191.5	-67.5	73.9

② 前年対比

A) 登録者数

	㊦ R3年度登録者数	㊩ R4年度登録者数	㊩-㊦ 差	㊩/㊦×100% 対比
年間延		195		
月平均		16.2		

B) 利用者数

	㊦ R3年度利用者数	㊩ R4年度利用者数	㊩-㊦ 差	㊩/㊦×100% 対比
年間延		2,298		
月平均		191.5		

(4) 職員配置 (3 月末日現在)

	常 勤		非常勤		合 計
	専任	兼務	専任	兼務	
管 理 者		1			1
生 活 相 談 員		3			3
介 護 職 員		2	2	1	5
機 能 訓 練 指 導 員				1	1
看 護 職 員				1	1
厨 房 職 員			1	1	2
延 べ 人 員		6	3	4	13
実 人 員	3		5		8

(5) 運営推進会議

第 1 回 令和 4 年 1 0 月

(6) 令和 4 年度自己点検評価

デイサービスセンターアスカ立神として活動を始めて 1 年が経ちました。

初めは職員の中でも戸惑いや不安もありましたが、1 年の活動の中で自分たちが目指すデイサービスの形が少しずつですが見えてきており、現在進行形で一つずつ目標に向かって励んでいます。

8 月と 1 月は新型コロナウイルスの影響もあり、対応に追われて大変な時期でもありました。しかし職員間でも感染症に対する意識の変化などもあり、いい教訓として感染症対策に落とし込んでいると感じています。

新年度は自粛していた行事などにも取り組んで、よりお客様に楽しんでいただけるデイサービスにしていきたいと考えております。

8. 地域密着型特別養護老人ホームアスカ【地域密着型介護老人福祉施設】

(1) 事業計画

① さらなる介護サービスの質の向上

タブレット端末や睡眠モニターシステムなど複数の ICT を活用することで入居者に対し科学的な根拠にもとづいた介護のアプローチを図り、合わせて職員の業務負担軽減に努めます。眠りスキャンを活用した良質な睡眠確保に努め日中の活動を増やす事で ADL の向上を目指します。

現在使用している入居者の介護福祉用具の見直しを行い、快適な日々を過ごして頂けるように努めます。又職員も介護を行いやすくなる事で、業務負担軽減を行い職場環境を改善していきます。

② 空室による売り上げ減の対策

入院や入退所入れ替わりによる空室を、ショートステイアスカや居宅と連携して空室日数を前年より減らします。退去の可能性が高い入居者がいる際には入居者判定会議を実施し、事前に数名候補を選出しておき、稼働率 93%と収入 1 億円を目標とします。

③ 入居者のご家族の繋がりを保つ

前年より新型コロナウイルスにて入居者のご家族の面会が規制されています。Zoom 等のオンライン面会を推奨継続し、繋がりを保てるよう努めます。

④ 職員の育成と離職防止

(ア) 認知症への理解をさらに高めて、ケアの質の向上を目指します。

(イ) やりがいのある仕事となるように職員の意見を積極的に取り入れる努力をし、働きやすい職場にできるような環境整備にとりかかります。

(ウ) 報告、連絡、相談といった業務の基本を徹底して実施します。

(2) 事業報告

① さらに介護サービスの質の向上

タブレット端末や睡眠モニターシステムの日常的な活用は定着しており、職員によっては問題解決のためにデータの傾向分析ができつつありますが、まだチームとして活用はできていません。またこれらの ICT 活用による業務負担軽減効果の評価については数量化ができておらず、個人の実感はまちまちの評価でした。

② 空室による売り上げ減の対策

空室対策は相談窓口担当職員を中心に実施していましたが、結果として令和4年10月のクラスター発生の影響もあって、令和3年度より137室の空室増となりました。

しかしながら、職員の頑張りもあって、稼働率95%(目標93%)と収入1億円の目標は達成しました。

③ 入居者のご家族の繋がりを保つ

オミクロン株感染拡大の6波～8波の影響を大きく受け、入居者の方とご家族の面会や外出は長い期間の制限がありましたが、ご家族のご理解と協力的をいただきました。なお、オンライン面会については、体制整備を行いましたが実績数は少ない結果となりました。

④ 職員の育成と離職防止

法人主催の研修参加や喀痰吸引研修、ケアマネ更新研修、老施協発表研修以外は職員が自主的に企画した研修案件がほぼ実施されず、コロナ感染を警戒した一年であったとは言え自発的な技術向上の意欲を評価できない一年でした。

離職者や腰痛等の故障者はおらず、クラスター時期を除くと職員稼働は安定していました

(3) 利用定員・年間利用者数

① 利用定員対比

	㉞ 利用定員	㉟ R4年度利用者数	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間延	7,300	6,951	-349	95%
月平均	608	579	-29	95%

② 前年対比

A) 登録者数

	㉞ R3 年度登録者数	㉟ R4 年度登録者数	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間延	240	237	-3	98%
月平均	20	19	-1	95%

B) 利用者数

	㉞ R3 年度利用者数	㉟ R4 年度利用者数	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間延	7,088	6,951	-137	98%
月平均	590	579	-11	98%

(4) 職員配置 (3 月末日現在)

	常 勤		非常勤		合 計
	専任	兼務	専任	兼務	
施 設 長		1			1
管 理 者		1			1
生 活 相 談 員		1			1
介 護 支 援 専 門 員		2			2
介 護 職 員	12		4		16
医 師 (嘱 託)			1		1
看 護 職 員		1		1	2
機 能 訓 練 指 導 員		1		1	2
管 理 栄 養 士	1				1
調 理 員			5		5
宿 直 職 員			1		1
介 護 補 助					
延 べ 人 員	13	7	11	2	33
実 人 員	17		12		29

(5) 運営推進会議

グループホームに同じ

(6) 令和4年度自己点検評価

令和4年10月に4階ユニットで新型コロナウイルスのクラスター感染が発生し、入所者9名・職員7名が感染者したことは、その後の経過を含めて本年度の重要な出来事でした。忘れ去ることなく、また日々の対策を怠ることのないよう職員ひとりひとりが自戒すべきと痛感しています。

前年度に引き続き1億円の収入を達成できたのは、職員の地道な介護、看護とその連携の成果だと思います。一方、入院や退所によって空室日数が前年度より137日増えてしまい収入損失となったのは人件費率の増という収益性を下げることにつながりましたので、次年度に課題が残りました。

9. ショートステイアスカ（特養併設型）【短期入所生活介護】

(1) 事業計画

地域社会の中で支援を必要とする高齢者が安心して生活できることや尊厳を重んじて自立や自己決定のもとで生活が送れるように短期入所生活介護サービスの提供を行います。

短期入所生活介護計画に具体的な援助内容を表記し利用者、ご家族に確認していただきます。

(2) 事業報告

- ① 前年度に比べて利用者数は増加し、地域の高齢者の支えになりました。
- ② 満室の状況が続き、FAXなどの営業活動は多くは行っていませんでした。
- ③ 短期入所計画を作成し、利用者・ご家族へ説明を行いました。事業所での浸透に不足している部分がありました。
- ④ 令和4年11月からコロナ感染クラスターが発生、ご利用者やご家族等、各種関係者方にご迷惑をお掛けしました。その後の感染予防対策は、さらに強化して取り組んでいきました。

(3) 利用定員・年間利用者数

① 利用定員対比

	㊦ 利用定員	㊨ R4年度利用者数	㊨-㊦ 差	㊨/㊦×100% 対比
年間延	3,285	2,864	-421	87%
月平均	273.8	238.6	-35.2	87%

② 前年対比

A) 登録者数

	㊦ R3年度登録者数	㊨ R4年度登録者数	㊨-㊦ 差	㊨/㊦×100% 対比
年間延	282	323	41	114%
月平均	23.5	26.9	3.4	114%

B) 利用者数

	㊦ R3年度利用者数	㊨ R4年度利用者数	㊨-㊦ 差	㊨/㊦×100% 対比
年間延	2,895	2,864	-31	98%
月平均	241.2	238.6	-2.6	98%

(4) 職員置 (3月末日現在)

① ショートステイアスカ

	常 勤		非常勤		合 計
	専任	兼務	専任	兼務	
管 理 者		1			1
生活相談員		1			1
介護職員	6		2		8
医師 (嘱託)			1		1
看護職員				1	1
機能訓練指導員				1	1
栄養士	1				1
調理員					
介護補助					
延べ人員	7	2	3	2	14
実人員	9		4		13

② 特別養護老人ホームアスカ空室ショート

特別養護老人ホームアスカ職員配置に同じ

(5) 令和4年度自己点検評価

本年度は、上記での報告のようにコロナクラスターが発生し、業務縮小を数日おこない大変なご迷惑をおかけしました。改めて感染予防に取り組んだ下半期だったと思います。また前年同様ですが日常の業務、請求に関しても確認ミスが多く、ご利用者及びご家族に大変なご迷惑をお掛けしてしまいました。

1年間を反省し、糧として令和5年度に繋げていけるようリーダー、サブリーダー、職員一丸となってサービスに取り組み、安心してお泊まりいただけ、多くの方にまたご利用頂けるような魅力あるショートステイ作りを目指します。さらに、職員力の向上に取り組みながら、ご利用者・ご家族・ケアマネージャーに信頼されるショートステイを目指したいと思います。

10. ミニデイサービス【介護予防・日常生活支援総合事業通所型サービスA】

(1) 事業計画

- ① 地域包括支援センターや小榎地域住民への広報活動を行い集客に努めます。
- ② 週2日の稼働から年度末には平日週5日の稼働を目指します。
- ③ 登録者数30人の獲得を目指します。

(2) 事業報告

- ① 昨年同様に職員の確保が難しく業務拡張ができなかった為、積極的な広報活動は行いませんでした。
- ② 水曜日、金曜日に加えて月曜日の稼働を増やす準備をしていましたが職員の確保が難しくなったため現状維持となりました。

- ③ 新型コロナウイルスの市中感染拡大が影響して短期集中型通所事業、ミニデイサービスともに新規の問い合わせが少なかったため7人の登録にとどまりました。

(3) 令和4年度自己点検評価

スタッフが他事業所との兼務のためシフトの調整が難しかったことが何度もあり、さらに送迎に関しても介護職員が担ったことで時間に追われ、しっかりと腰を据えた事業運営ができず広報活動も行いませんでした。しかし、介護予防に対する社会的ニーズは増加する傾向にありプログラムに関してもお客様は満足されており心身機能が改善できたことで継続の必要性を感じています。

11. 配食サービス

(1) 事業計画

- ① ひとり暮らし等の調理や買い物が困難な高齢者、障害者に食事を配達し、食事の確保と安否確認を行います。
- ② 目標食数 800食/月
- ③ 目標対象者数 55名/月

(2) 事業報告

- ① 地域の高齢者の安心安全な生活に貢献できました。
- ② 目標食数 800食/月 → 実績 861.9食/月
- ③ 目標対象者数 55名/月 → 実績 55.7名/月

(3) 前年対比

A) 合計数

	㉞ R3年度	㉟ R4年度	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間延	9,243	10343	1100	111.9
月平均	770	861.9	91.9	111.9

B) 売り上げ

	㉞ R3年度	㉟ R4年度	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間	445万円	496万	51万円	111.5
月平均	37万円	41.3万円	4.3万円	111.6

(4) 職員配置 (3月末日現在)

	常勤		非常勤		合計
	専任	兼務	専任	兼務	
調理員	2	1	4	1	8
配達員		0		2	2
延べ人員	2	1	4	3	10

(5) 令和4年度自己点検評価

コロナ禍で外出の機会が減り在宅生活が多くなったこともあり、昨年度よりもさらに注文数が増えました。また平日を毎日注文される方も多い状況でした。しかし注文数が増えたことで調理を行う場所が手狭になっていることと、配達員だけでは配達が増えないようになっているのが課題として挙がっています。

12. 介護職員初任者研修

(1) 事業計画

長崎県長寿社会課に申請後認可を得て、年2回の研修を実施します。

福祉事業として介護技術の習得や普及に寄与する一方、修了と同時に本会に就職した実績もあり、既に本会で勤務にあたっている職員の資格取得の場にもなっています。

(2) 事業報告

年度初め、計画に沿って年2回の開催申請を済ませたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、前期は感染予防の観点から中止となりました。下期は、新型コロナウイルス感染対策の観点から一般公募は控え、法人内の職員を対象に募集を行い、2名が受講し資格取得へとつながりました。

(3) 利用定員・年間利用者数

① 利用定員対比

	㉞ 利用定員	㉟ R4年度利用者数	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間延	14	3	-11	21.4%

② 前年対比

	㉞ R3年度	㉟ R4年度利用者数	㉟-㉞ 差	㉟/㉞×100% 対比
年間延	0	3	3	300%

(4) 令和4年度自己点検評価

受講定員を10名から7名に定員を見直し、年度初めの申請時は、前期・後期を開催し合計定員14名を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、前期は中止、下期は法人内の職員限定での応募で3名の実績となりました。

令和5年度に於いては、新型コロナウイルス感染状況も踏まえながら開校を目指し前期・後期の開催申請を済ませ、ホームページなどでも一般の受講生を応募していきます。

13. 小榊児童クラブ【放課後児童健全育成事業】

(1) 事業計画

- ① 放課後健全育成事業の適正な基準を理解し、健全な運営を行います。
- ② 職員間のコミュニケーションを密にし、学童運営の円滑化を行います。
- ③ 学童内の各種マニュアルや業務手順書等を整備し、基盤を構築します。

- ④ 特別な支援を必要とする児童の特性を理解し、それぞれの児童に合った支援を行います。

(2) 事業報告

- ① 昨年度同様4クラスでの運営をしました。
各クラスに担任を配置し、個性を尊重して児童の支援ができました。また、季節休暇中（夏休み、冬休みなど）にはクラス単位で行事、クラス活動ができました。
- ② 新型コロナウイルス感染症が流行している中、本学童職員・児童からも陽性者が確認されました。閉所し感染を抑える判断が求められ、児童・保護者へ負担をかける結果となり、消毒などはもちろん、児童との関わり方を工夫して感染対策を講じる事が求められました。
- ③ 支援員認定資格研修や定期的研修へ参加し、指導員としての知識を高める事ができました。
- ④ 職員の体制が整い、保育支援の人員配置が整備されました。しかし、職員間の連携ミスやコミュニケーションの不足が目立ち、連携・情報共有の再検討が必要となりました。

(3) 利用定員・利用者数

① 登録者数

	令和4年4月	令和5年3月
1年生	53	42
2年生	49	45
3年生	32	30
4年生	23	18
5年生	7	6
6年生	2	2
合計	166	143

② 定員対比

	㊦ 利用定員	㊩ 登録者数	㊩-㊦ 差	㊩/㊦×100% 対比
R3年4月	160	166	6	103.8
R4年3月	160	143	-17	89.4

※1クラス40名定員 4クラス編成時160名を定員とする

(1) 令和4年度自己点検評価

- ① 担任制と役割分担への取り組みに効果がありました。
- ② 感染症対策の困難さを痛感しました。予防対策を徹底していきます。
- ③ 職員間の連携・情報共有が不十分であり、連携手段を検討します。

III. 地域交流事業

1. 小榊小学校区見守りネットワーク

- (1) ネットワーク会議：5月、7月、9月、11月、3月実施。1月は大雪警報発令のため中止。
- (2) 令和5年5月23日に初めての徘徊高齢者に対する声掛け模擬訓練を実施するための準備にとりみました。

2. 介護予防教室（毎月1回、木鉢ふれあいセンター）

- (1) 毎月開催。レクリエーションは小規模多機能型居宅介護さくら、さくらⅡ、居宅介護支援事業所、認知症対応型通所介護アスカⅡが持ち回りで行いました。

3. 法人創設19周年記念講演会

デイサービスセンターアスカのフロアにて、すがさきクリニック菅崎院長を講師に迎えてオンラインで実施しました。新型コロナウイルス感染予防の観点から、職員と来賓のみ計53名の参加となりました。

4. 秋祭り コロナのため中止 代わりに法人内でフォトコンテストを実施

5. 地域行事への参加 コロナのため中止

6. あいさつ運動（子供110番—こども安全見守りを兼ねる）

7. 施設周辺の清掃活動（毎月1回みなと坂団地入口南ゲート付近の歩道清掃）

IV. 研修・視察・ボランティア受入れ

1. 研修

受入れ無し

2. 視察

受入れ無し

3. ボランティアの受入れ

受入れ無し

V. 職員の採用及び研修

1. 採用

- (1) 長崎純心大学、長崎医療こども専門学校、こころ医療福祉専門学校への求人、介護労働安定センター等での会社説明会
- (2) ハローワークへの求人
- (3) 県福祉人材センターへの求人
- (4) 新聞折込
- (5) 本会介護職員初任者研修
- (6) ホームページによる求人
- (7) 職員の紹介
- (8) アスカ通信（毎月）による求人
- (9) 敷地内フェンスへの求人募集看板の設置

2. 研 修

- (1) 法人内研修（全体OFF-JT、新入職員研修、中堅職員研修、リーダー研修）
- (2) 長崎市グループホーム連絡協議会、小規模多機能居宅介護事業所連絡会、
長崎県・長崎市老人福祉施設協議会、その他の団体主催の研修会
（オンライン研修も含む）

VI. 役員会・委員会・法人内活動等

1. 役員会等

- (1) 理事会（4回）
- (2) 評議員会（2回）
- (3) 監査
- (4) 評議員選任・解任委員会（開催なし）
- (5) 運営推進会議（特養アスカ、さくら、さくらII、ひばりは合同開催及びデイアスカII、デイ立神）
- (6) 苦情解決第三者委員会

2. 経営検討会議（月2回）

3. リーダー会議（月1回）

4. 委員会

- (1) 地域包括推進室
- (2) 福利厚生委員会
- (3) 防災委員会
- (4) 研修委員会
- (5) 衛生委員会
- (6) 新型コロナウイルス感染症対策委員会（週1回及び臨時）
 - ① 各事業所に対応した新型コロナウイルス発生時における業務継続計画（BCP）に基づく対応
 - ② 新型コロナウイルス感染拡大防止のためのマニュアル・通知文作成
 - ③ 新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応検討（クラスター発生への対応6回）
 - ④ 研修の実施（リーダー会議、全体会議で毎月報告）
 - ⑤ 発生時対応シミュレーション
（デイアスカ立神、ひばり、特養アスカ、各1回）

5. 自衛消防隊

6. メンタルヘルス相談室

7. フィロソフィの学習（リーダー会議、職員研修会、朝礼等）